

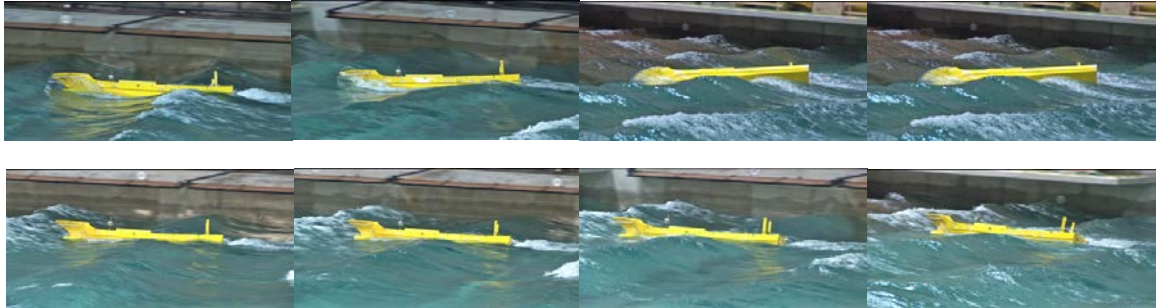
漁船工学グループ

主要業務

1. 漁船の性能、構造、設備および設計に関する研究開発
2. 漁業用機械の構造、材料、制御および設計に関する研究開発

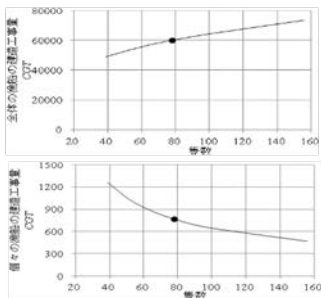
漁船漁業では、水産資源を持続的に利用し漁業経営を安定させることが重要です。生産手段として、沿岸の小型漁船から遠洋の大型漁船まで様々な規模の漁船が稼働していますが、燃油費の高騰、魚価の低迷、海難事故などにより漁船漁業を巡る環境は厳しさを増しています。これらの解決に向けて、研究開発に取り組んでいます。

漁船の安全性向上の研究開発

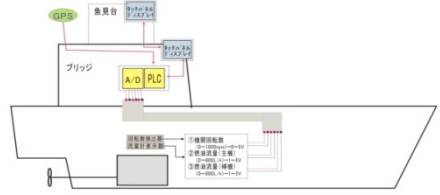


船首に取り付けた大傾斜防止翼による転覆防止実験
(上段: 翼なし→ 転覆 下段: 翼あり→ 転覆せず)

省エネ船型の開発 漁船機関・漁労機械の省エネと省力化の研究



上: 船首付加物による波浪中抵抗増加の低減(約20%)
左2図: 隻数を減らし大型化すると、安全性が高く労働生活環境の良い漁船となり、個船の船価は増加するものの、全体の投資コストは減少



- ・船体の改良に省エネ化(左)と
- ・燃油消費量見える化による省エネ促進効果(右)



安全で省力・省エネ次世代漁船の創出